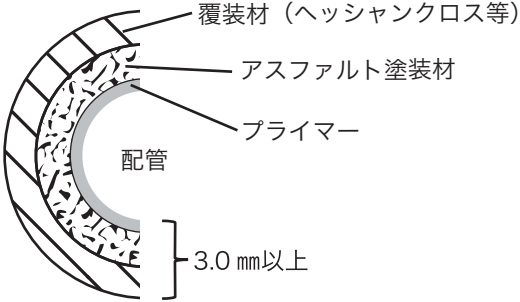
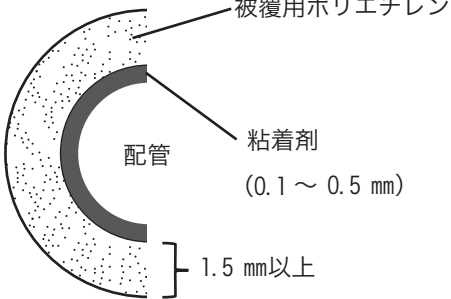
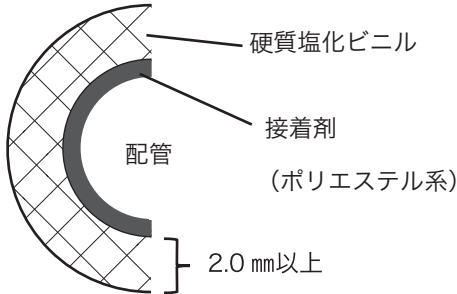
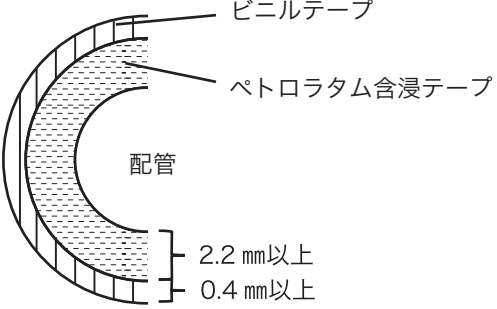
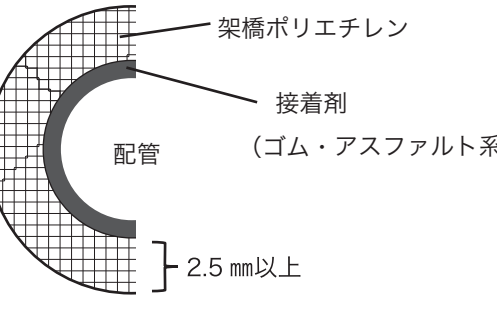
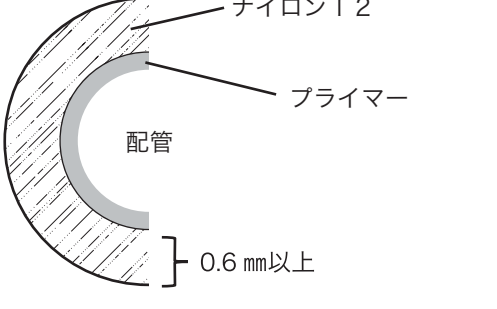


別記第15 地下埋設配管の塗覆装 及びコーティング

(1) 地下埋設配管は、危規則第13条の4の規定によるほか、次表4-15-1の例を参考として塗覆装又はコーティングが施された配管とすること。

表4-15-1 塗覆装等による例

施工方法	例 図				
<p>告示第3条</p> <p>配管表面にプライマーを塗布し、塗装材を加熱溶融して塗装した上から、アスファルトを含浸した覆装材を巻きつける。塗覆装の厚さは、配管の外表面から3mm以上。</p> <table border="1" data-bbox="252 707 778 904"> <tr> <td data-bbox="252 707 359 781">塗装材</td> <td data-bbox="359 707 778 781">アスファルトエナメル又はブローンアスファルト</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 781 359 904">覆装材</td> <td data-bbox="359 781 778 904">ヘッシュャンクロス (JIS L 3405)・耐熱用ビニロンクロス・ガラスクロス・ガラスマット等</td> </tr> </table>	塗装材	アスファルトエナメル又はブローンアスファルト	覆装材	ヘッシュャンクロス (JIS L 3405)・耐熱用ビニロンクロス・ガラスクロス・ガラスマット等	<p>アスファルト塗覆装</p> 
塗装材	アスファルトエナメル又はブローンアスファルト				
覆装材	ヘッシュャンクロス (JIS L 3405)・耐熱用ビニロンクロス・ガラスクロス・ガラスマット等				
<p>告示第3条の2 (JIS G 3469)</p> <p>口径15A～90Aの配管にポリエチレンを1.5mm以上の厚さで被覆したもの。粘着剤はゴム、アスファルト系及び樹脂を主成分としたもの。被覆用ポリエチレンはエチレンを主成分とした重合体で微量の滑剤、酸化防止剤を加えたもの。</p>	<p>ポリエチレン被覆鋼管</p> 				
<p>昭和53年5月25日 消防危第69号</p> <p>口径15A～200Aの配管にポリエステル系接着剤を塗布し、その上に硬質塩化ビニル(厚さ2.0mm)を被覆したもの。</p>	<p>塩化ビニルライニング鋼管</p> 				

<p>昭和54年3月12日 消防危第27号</p> <p>配管にペトロラタムを含浸したテープを厚さ2.2mm以上となるよう密着して巻き付け、その上に接着性ビニルテープで0.4mm以上巻きつけ保護したもの。</p>	<p>ペトロラタム含浸テープ被覆</p>  <p>ビニルテープ ペトロラタム含浸テープ 配管 2.2 mm以上 0.4 mm以上</p>
<p>昭和55年4月10日 消防危第49号</p> <p>ポリエチレンチューブを配管に被覆した後、バーナー等で加熱し、2.5mm以上の厚さで均一に収縮密着したもの。</p>	<p>ポリエチレン熱収縮チューブ</p>  <p>架橋ポリエチレン 接着剤 (ゴム・アスファルト系) 配管 2.5 mm以上</p>
<p>昭和58年11月14日 消防危第115号</p> <p>口径15A～100Aの配管にナイロン12を0.6mm以上の厚さで粉体塗装したもの。</p>	<p>ナイロン12樹脂被覆</p>  <p>ナイロン12 プライマー 配管 0.6 mm以上</p>

(2) 廃止されたJIS G 3491「水道用鋼管アスファルト塗覆装方法」に適合する塗覆装材及び塗覆装の方法により施工される配管の塗覆装は、危告示第3条第1号及び第2号の規定並びに危告示第22条第1号及び第2号に適合するものとして、これまでと同様に認められるものであること。
〔H23.12.21消防危302〕

